

# ひらほく新聞



★フログひらほく通信★

登録なしで携帯でも閲覧可能。  
当店からの各種お知らせや、ここに  
に効くお話等、ぜひご覧ください!!  
<http://ameblo.jp/hirahoku/>

発行所 読売センター平塚北部 (ひらほく) 山本 直 〒254-0013 神奈川県平塚市田村9-4-32 電話 0463-54-2807

## 我勝道 凡事徹底

### 子供は他人が産んだ 我が息子、我が娘

昨春秋、格闘塾塾長の「どやさん」こと山田一夫さんに、遠く岐阜県郡上市八幡町よりお越しいただき、熱いご講演をいただきました。どやさんは少数個人塾にて、いわゆる《落ちこぼれ》と言われる子どもたちを引き取り、授業の一部に「修身」を取り入れ、人間力養成に重点を置き、人生を生き抜く軸を作る塾、21世紀を担う日本男児、大和撫子養成所としての「再生学習塾・格闘塾」を構築しようと、命を懸けてバリバリ爆走している素晴らしい方です。今回は、私たち大人にとってもとても重要な学び、教えとなる、そのどやさんの大切にしている基本理念・熱い思いをご紹介します。

格闘塾は学習塾という枠におさまりにきらない、学校よりも面白い塾、人生を生き抜く柱を作る塾、岡田多母さんの言葉『子供は、他人が産んだ我が息子、我が娘』のように、子どもを我が子として、一人前の大人に育てる塾を目指しています。

◎ 格闘塾理念

学問や人生勉強を通して、自分の弱い心、怠け心に負けない強い気持ち(我勝道)と、誰にもできることを誰にもできないくらいに継続すること(凡事徹底)を身につけ、自力で自分の人生を切り拓き、「また会いたいなあ」と思われる人間力を持つ、世のため人のために生き切る日本男児と大和撫子の養成所であること。

◎ 格闘塾としての指導の三本柱

- ① strong body 鋼の如き鍛えあげられた体力
- ② warm heart 思いやりを体現できる人間力
- ③ cool head 逆境を成長に変えられる脳力

子どもは生れた時から目の前にいる親の言うことは、なかなか聞かれません。でも、信頼する大人の言うことは聞きます。子どもたちから、信頼される一番身近な大人でありたいと、日々精進をしています。そして、子どもと親御さんとの橋渡しができればと、学習塾を続けています。勉強では英検、漢検、数検3級合格を目指し、学校教材を徹底的にやり抜きます。併せて、人と人とのコミュニケーションがきちんと取れる人間力を

と徹底指導します。ですから、勉強で学べない上下関係、仲間と一つの目標を目指す素晴らしい訓練の場として部活も奨励しています。

勉強を教える前にまず、自分の夢や生活を管理する「入魂格闘手帳」の使い方と、勉強の仕方を徹底的に教えます。効果的勉強方法を学んだ後、英語と数学は個別指導、国語、理科、社会は集団授業で、パンパン勉強していきます。

格闘塾塾生は、毎日しなければいけないことがあります。それは、**家の手伝いと日誌を書くこと。**家族の一員として、家の手伝いを毎日継続する、そして、前日に決めた今日の目標を達成できたか否かを反省し、日誌に毎日書く。これを「凡事徹底」の基本として、「入魂格闘手帳」に記録し、管理していきます。

そして、授業の半分は、「修身」の授業。修身で、身につけてもらう基本は、二つ

『我勝道』

自分の弱い心、怠け心に勝つ

『凡事徹底』

誰にもできることを誰にもできないくらいに続ける

この二つを身につけて、

『文武両道』を体現していきます。

これを二刀流として、

『あいいうえお』を念頭に毎日生活をしてもらいます。

『あ』＝愛 『い』＝今、命  
『う』＝運 『え』＝縁  
『お』＝恩、温

『あ』は、愛、思いやりのこと。思いやりとは、相手の立場に立つて、モノを考え、行動できること。人には愛を持って、思いやりを持つて、接する。すると、その人と、『縁』ができる。チャンスは、人が連れてくる。だから、『運』がつく。その『運』に感謝して、その

人に『恩』返しをする。もらった『恩』は、その人だけに返すのではなく、ほかの人に「こんな素敵なことを教えてもらったよ」と『恩』送りをして、自分の周りを幸せにする。すると、その人も『温』かくもなる。そして、『今』という時を生き切る。

生き切るとは、二つ。

目の前のコトを一生懸命にやる。  
目の前の人を一生懸命に喜ばす。

◎ 五つの基本原則

『挨拶』『返事』『敬語』  
『礼儀』『笑顔』と

◎ 五つの愛

『元氣』『活氣』『やる氣』  
『根氣』『本氣』

これが出来るようになると、世間で可愛がってもらえるようになります。

修身に関しては、毎月行う保護者会で、どのようなことをやっているか、実際に体験して頂きますし、また、友人の講師を招き、子育てに関する悩みなどを癒す場や子育て支援の一助になればという思いで、保護者会をさせて頂いています。保護者会でお願している一番のことは、親が可愛がらなくても、世間が可愛がってくれる人間に育てましょう!ということ。それは、基本五原則と五氣愛ができてくる子どもです。これがしっかりと出来る、世間が可愛がってくれる人間になれる。

育児は、育自でもあります。お子さんとご両親と一緒に成長できる塾でありたいと思います。

どやさんは、メルマガ(フログ)『我勝道と凡事徹底』を365日朝晩必ず発行、自分の人生を自力で変えてやろうと格闘している塾生以外の全国の多くの人にもエールを送り続けています。以下、6月19日付け朝刊メルマガをご紹介します。

【仕事(志事)】

ある塾生の日誌を読んでいたら、「職業体験」してきたことを題材にしてくれていた。

「近所の商店街の魚屋さんで、店頭に立って、初めて売り子さんをした。それしたら、お客さんから「ありがとう」という言葉をもらい、とてもうれしかった。自分はモノを買う時は自分がお客さんだから「ありがとう」は言わなくてもいいと思っていた。でも、言われてみると、とてもうれしかったので、私がモノを買うときにも「ありがとう」を言うことにした。」という内容だった。

「ありがとう」という魔法の言葉の威力をこの年齢で知ったのは立派だ。みんなも学校を卒業すると、社会に出て働かなくてはならない。人生の先輩からアドバイスさせてもらおうと・・・

「お金を払ってでもやりたい仕事をやるのだ」。現在、塾講師をやっているが、この仕事は途轍もなく面白い。お金を払ってでもやりたい仕事なのだ。そんな仕事をどう見つけるかは、簡単だ。「目の前の仕事に全力でぶつかること」、これだけだ。

勉強も一緒。わからない間は辛いだけなのだ。それがわかり、できるようになってくると、面白くなる。

仕事も最初はつらいのだ。でも、仕事に分かり、出来るようになると楽しくなってくるのだ。勉強も仕事も臨む姿勢は同じなのだ。「熱く熱く熱く行く」ことなのだ。どう生きたくて同じ一生だ。だったら、熱く熱く熱く生きて、熱く熱く熱くぶつかってみよう。

失敗した?挫折した?引きこもった?そんなもの、大したことじゃない。人生は死ぬこと以外、全てかすり傷だ! 人生最高の一日のために、今日も熱く熱く熱く目の前の事に取り組もう。今日も熱く熱く熱く目の前の人を喜ばせて、みんなの手を取り合せて、今日も楽しもう。バリバリだぜ!

『キミの未来は今日作られる』今日も、喜ばせと輝愛で、元氣出していこう!

★0860933@amerjuno.ne.jpに空メールでメルマガを簡単に登録できます!

## 【魂の教育】

6月23日、友人の主催する「映画【魂の教育】上映会&七田厚さんのお話の会」に参加してきました。

2008年劇場公開作品、映画【魂の教育】は、右脳教育、児童教育の第一人者として世界中から注目されている、故七田眞氏を追った初のドキュメンタリー作品。

監督は2006年ロードショーされ、その透明感あふれる演出にアメリカなど海外でも賞賛を浴びた映画「ストーンエイジ」をつくった、声優・俳優として活躍する傍ら、ドキュメンタリー作品に果敢に挑んでいる白鳥哲監督。この映画は、21世紀を象徴するバイブル的な映画となるであろうといわれ、日本の教育界のみならず、「今」を生きる、迷える全ての現代人に確かな指針を与える、まさに叡智にあふれています。

故七田眞氏がどうして、この教育開発をするに至ったのか。そこにはもの凄いな過去、経緯がありました。ぜひ、どちらかで観ていただきたい感動いっぱいのもとも素晴らしい映画です。

念願叶って、ついにお逢いできました、七田厚(コウ)さん(株式会社しちだ・教育研究所代表取締役=故七田眞氏の息子さんで父の意志、事業を引き継いで全国でご活躍されています)は、とても大柄で思っていたとおりの、いえ、それ以上のとても温厚な素晴らしい方でした。

映画の後のお話では、この映画を創った経緯をご自身が育ててもらってきた父、七田眞さんの生き様を通して、そしてその教えを自らの子どもたちを愛して実践してきた子育ての実例を織り込みながら、熱くお話いただきました。とても素晴らしいお話でしたので、ここに少しご紹介させていただきます。

父、故七田眞氏の目指した魂の教育とは…。勉強ができるだけではなく、リーダーシップをとれる子どもたちに育てること。

そのために最も重要なことは、『愛を伝える』ということ。その3つの方法。

①抱っこ、手をつなぐなどの「スキンシップ」愛されていたということ、潜在意識にも顕在意識にも残してあげる、しっかり伝えてあげること。共働きなどで付き合う時間が少なくても、回数ではなく、濃い密度で伝える。

②話をしっかり聞いてあげる子どもの話を“オウム返し”で受け取りながら、“質問を加えて”話を続けていくと、話す力も育っていく。

③絵本を読んであげる寝る前の「読み聞かせ」は国語的な力を育てる以上に、大切なポイントがある。それは、嫌なことがあったり、どんなことがあった一日でも、「ハッピーな気持ちにリセットでき、翌朝、清々しい朝でスタートできる」ということ。そして、習慣として続けることでその愛情がしっかり伝わり、「本が好き」になる。小学校に入るまでではなく、できれば10歳くらいまで続けた方がよい。

◎魂の教育、三種の神器

①「愛を伝える」こと

② 愛を伝えたいうでの「厳しさ」

③「信頼」

“あなたならできるよ!”と伝え続ける。

愛は伝え続けられない限り賞味期限が短い、信頼は成長していく中でずっと残る。

子どもの励みになるような、勇気づけるような“いい言葉”をたくさんかけてあげる、残してあげると、大きくなって思い出したとき、必ず自分自身を勇気づける言葉になる。生きる力になる。

## 「お母さんの勲章」

「私を大学に通わせてくれた母へ」  
あなたは私を産むまでずっと父の暴力に苦しんでいましたね。  
私が産まれて時、あなたは泣きながら喜んでましたね。  
私が一歳の誕生日に借金を抱えたまま父が自殺しましたね。  
借金を返すために  
昼はパート夜は居酒屋で仕事の毎日でしたね。  
保育園では遠足のおやつは雑穀のおはぎでしたね。  
小学校の給食費を払えない月もありましたね。  
修学旅行のおみやげはご当地キーホルダーだけでしたね。  
中学の制服は親戚のおさがりでしたね。  
高校のお弁当はいつもご飯に梅干しと海苔でしたね。  
無理を承知で大学行きたいと頼んだ時、  
あなたは反論しませんでしたね。  
ごみ処理場から捨てる予定の参考書を  
もらいに行きましたね。  
お金がかかるから私は受けられず、国立専願受験でしたね。  
センター試験の前日には  
初めて特上寿司を食べさせてくれましたね。  
センター試験に失敗したけど、  
あなたは最後まで諦めないよう励ましてくれましたね。  
前期に落ちて、一度私は自殺しかけたね。  
あなたは怒ることもなく、ずっと私に謝り続けていましたね。  
私もあなたにずっと謝り続けましたね。  
そして私は気持ちを切り替えて後  
私はその後も頑張って勉強して、  
なんとか後期に合格することが出来ましたね。  
あなたはずっと「おめでとう、おめでとう」と泣き続けてくれましたね。  
でもあなたは入学の準備の時に  
急に倒れて病院に運ばれましたね。  
医者が、癌が全身に転移していて  
これから一週間が峠だと告げましたね。  
私がかたがた泣き続けている時にあなたは  
「この体の傷や癌の一つ一つが  
あなたを育てあげた立派な勲章なのよ」と  
微笑みながら言いましたね。  
あなたは最後まで泣くことも苦しむこともなく、  
静かにこの世を去りましたね。  
今私は医者になるために毎日一生懸命に勉強していますよ。  
あなたの命を奪った癌に苦しむ人々を治療して助けたいから  
私が育った環境は決して恵まれてはいなかったけれど、  
あなたに生まれ、育てられて本当によかったですよ。  
ありがとう、お母さん。 ～出典「kokoro 堂」～



## 【魂に響く歌 ロックバンドおかん BREAKpoint】

「あの場所に立ちたい」。14歳の時にB'zのライブを見て、言葉では言い表せない感動を魂で感じて、中学校の仲間たちと共にバンドを結成。あの日から17年。4人組の「ロックバンドおかん」は、2013年4月8日、ついにその追いかけてきた夢「大阪城ホール単独公演」を実現、6000人を越える人全国のファンが集結、自分も多くの仲間たちとその夢が叶う瞬間を共有、見届けました。

厚木の熱い仲間たちで主催した1月のライブ以外にも、サプライズで駆けつけてくれたりしていた、おかん達。この度、ヴォーカルのDAIちゃんが書籍「BREAKpoint 人生が変わる瞬間」発売を記念し、全国でトークライブを開催。今回5/23、本厚木で開催の熱い仲間の主催イベントに参加、協力しました。

以前、初めて目の前でヒット曲「人として」を聴いたとき、仲間と肩を組んでサビを合唱し、涙が止まりませんでした。まさに「身体のだ真ん中、魂に響く、届く」という感覚。そのパワー、エネルギーはいったいどこから湧いてくるのか。音楽業界で前代未聞といわれる、事務所にも所属していない、1000人のライブすら集めたこともない無名バンドが、城ホール公演をなぜ成し遂げられたのか。

書籍にもありますが、親の離婚や、大切なファンの自殺など、そこには幼少期からのDAIちゃんの壮絶な人生があり、本気の覚悟がありました。夢のステージに立った瞬間の感情、そして夢を叶えた先のこれからの展望などまで、熱く語ってくれました。伝えてくれた大切なメッセージを少しご紹介します。

感動の選択肢のお話。夢を叶えた大阪城ホール公演の翌日から、すぐにアジアツアーに出掛けたおかん。中国に行きつてホームレスとの出会いなどから、まだまだ、自分たちに無限の選択肢があると強く実感したといえます。

「昨日の自分を越え続けること。努力だけでは進まないことをたくさん経験してきたから、努力してもものがある意味簡単に思えるようになった。5年10年毎日昨日を越え続けたら、なりたい自分に絶対にたどりつける!」  
「大切な人を歌で助けてあげられなかった…。大切な人のために選んだ大切な人の道は自分の道にならないから、その人の笑顔に繋がらない。だから、まずはいつも自分の心がワクワクする方へ進めばいい!ホントにやりたいことは何か?一緒にいたい人は誰か?行きたい場所はどこか?」

「いつも胸に大切に持っている大嶋啓介師匠の言葉。『人生はいつも今日がスタート!』人生はまだまだ長い。無限の選択肢がある。何度も何度も選択できるので、自分もずっと選択し続けていきたい!」  
帰国後すぐに始めた中国語の挨拶も披露。アジアの橋渡しを3年、その先世界へと繋がっている夢は必ずや実現するのだらうと、もの凄いなエネルギーを感じました。BREAKpointを経験して、歌は「お客様へ」ではなく、一人ひとりの「人へ、人の心へ届ける」ように歌うようになったそうです。最後のアカペラはまさに魂に響き、ずばり心のだ真ん中へ届きました。皆さん、ライブへぜひ!

人を「笑わせよう」としている人は、日々、どうすれば人が笑えるかを考えている。だから、自分が「楽しい」「おもしろい」と感じるものに意識を向けている。  
人を「幸せにしよう」としている人は、日々、どうすれば人が幸せになれるかを考えている。だから、自分が「幸せだ」と感じるものに意識を向けている。  
人を「困らせよう」としている人は、日々、どうすれば人が困るかを考えている。だから、自分が「困る」と感じることに意識を向けている。  
人を「悲しませよう」としている人は、日々、どうすれば人が悲しむのかを考えている。だから、自分が「悲しい」と感じることに意識を向けている。  
人を「痛い目に合わせよう」としている人は、日々、どうすれば人が苦悩するかを考えている。だから、自分が「つらい」と感じることに意識を向けている。  
同じ世界に住んでいても、人が見ている世界は別のものだ。だから、ほら、あなたの「思っている」世界が、そこに「そのまま」あるじゃないか。  
～出典元:「あの世に聞いた、この世の仕組み」雲 黒斎(著) ☆習慣が人を創る。あなたはどこに意識を向けたいですか?

◎ホームページ【ひらほくランド】準備中!  
<http://www.hirahoku.com/>  
好評こわれせん など、販売品の写真や詳細情報の提供、その他喜んでいただける情報発信を計画!順次載せていきますので、覗いてみてください。どうぞお楽しみに!

【編集後記】おかげさまで、「ひらほく新聞」も創刊3年を越え、全国の皆様にも少し配信させていただくようにもなりました。月末に近づいて慌てて「行きあたりパッチリ」で制作しておりますが、「お店に置きたい」「配布したい」という「おせっかいな方」がおられましたら、どうぞお気軽にお申しつけください。「私の凡事徹底習慣」をご紹介します。眼筋トレが一年を超え、老眼が治り、近視も改善。(他にも良いことが)筆文字は6ヶ月を越え、題字の通りです。利き手でない左手箸食事、もうすぐ3ヶ月。(郷ひろみさんが2年前からバランスを考えて変えたと聞いて)◎続けるポイントは、何よりワクワク楽しんで向き合うことです!